

令和4年度農作物病害虫発生予察技術資料第3号

令和4年(2022年)8月1日
山口県病害虫防除所

水稻のトビイロウンカの防除対策について

県内予察灯及び現地でのすくい取り調査の結果から、7月19日頃に県内への飛来があったと考えられますが、7月下旬の現地巡回調査(見取り調査)では、トビイロウンカの発生は認められず平年並みの発生でした。

下記の発生予測による防除適期を確認するとともに、出穂前後の防除対策の徹底をお願いします。

記

1 飛来状況

- (1) 7月19日、20日に、山口市の予察灯で各1頭の誘殺を確認した。
- (2) 7月20日に、山口市大内の県予察ほ場(無防除田)におけるすくい取り調査で成虫を確認した。
- (3) 7月26日に、現地すくい取り調査で山陽小野田市及び長門市で成虫を確認した。
- (4) 以上のことから、7月19日頃を中心に本虫の県内への飛来があったと考えられた。
- (5) なお、7月下旬の現地巡回調査(見取り調査)及びネットトラップ調査等では、本虫は確認されず、平年並みの発生であった。

2 防除適期予測(下図参照)

本虫の今後の発生予測は、下図のとおり。

主要な飛来は7月19日頃と推定され、防除適期は第1世代幼虫期である8月6日～8月10日頃、第2世代幼虫期である9月4日～9月9日頃と予測される。

		JPPネット有効積算温度シミュレーション																				
		8月					9月					10月										
飛来日	飛来量	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20					
7月19日	並	卵					第1世代成虫					卵		第2世代成虫					卵		第3世代幼虫	
		防除適期					防除適期					防除適期		防除適期					防除適期			
7月29日現在																						

図 トビイロウンカの防除適期予測図

※本虫による被害が懸念されるのは、第3世代幼虫期である10月中旬以降と推察される。

3 防除対策

- (1) 防除の目安は、8月上旬までは100株当たり成虫20頭
8月中旬以降は、株あたり成幼虫5頭以上 である。
- (2) 特に、直播栽培ほ場や本虫に効果の高い箱施用剤が使用されていないほ場では、発生状況をよく確認し、防除の目安を参考に防除を実施する。
- (3) 晩生品種では、出穂期前後の防除を実施する。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫は、株元付近に生息して増殖するため、株元へ薬剤が十分にかかるよう薬剤散布を行う。
- (2) 本虫は、同一地域内、同一ほ場内でも偏って発生することが多いので、ほ場をよく見回り、最も防除効果の高い若齢幼虫最盛期に防除を実施する。
- (3) 薬剤散布の際には、農薬使用基準を遵守し、周辺作物への飛散を防止するとともにミツバチ等に危害を及ぼすことがないように十分注意する。また、農薬散布実施日時について、周辺農家や住宅等へ事前の周知に努める。



写真1 短翅型成虫



写真2 長翅型成虫



写真3 幼虫



写真4 坪枯れ